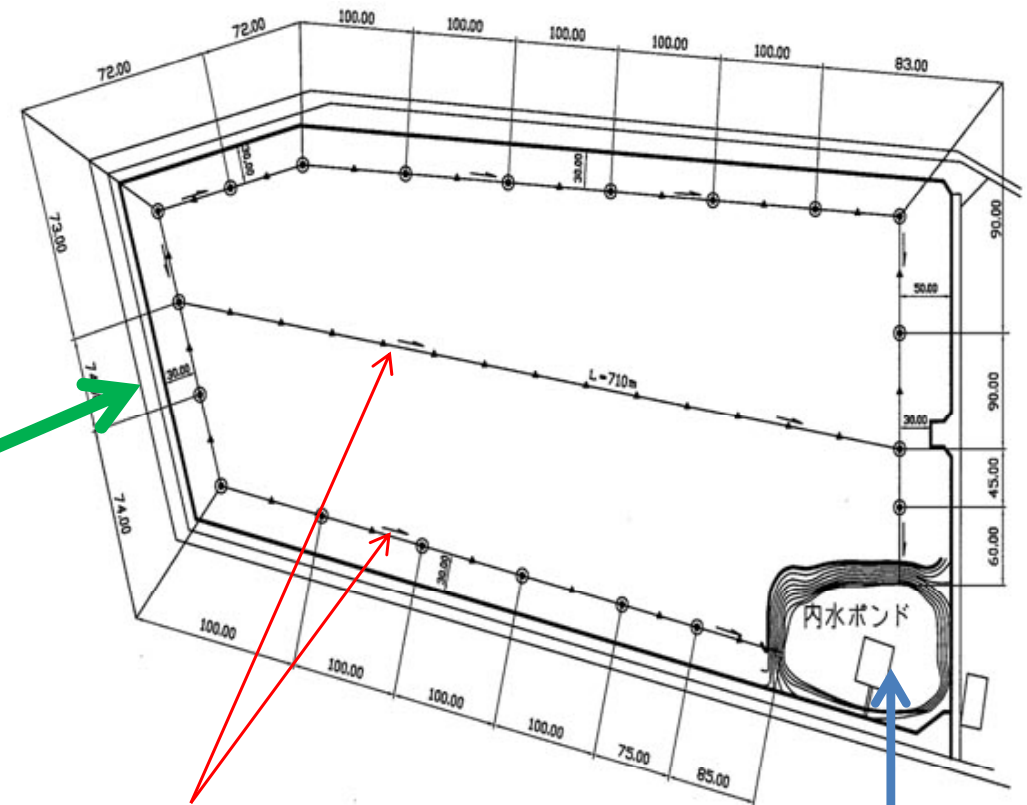


9. 海面・陸上埋立地における高pH浸出水の 長期流出

明星大学 宮脇健太郎

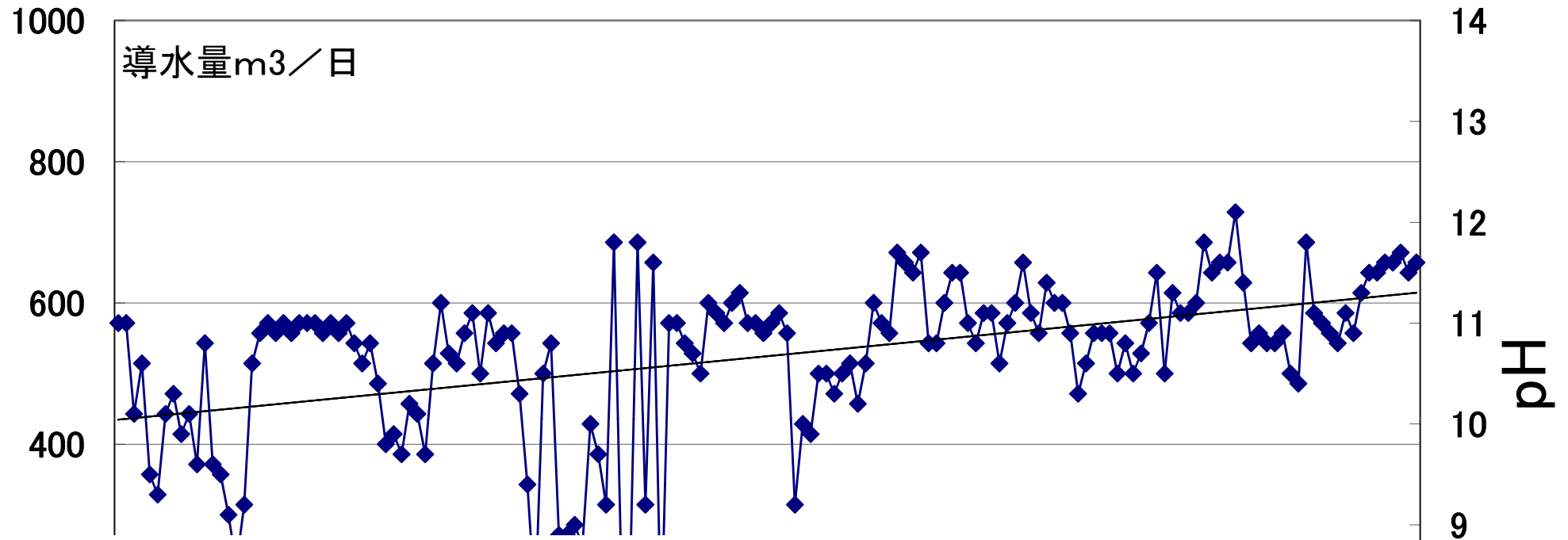
- 廃棄物層が滞水状態, 焼却灰埋立→高pH浸出水の可能性(海面、陸上)
 - [焼却灰中の $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 由来]
- 海面事例(尼崎処分場)



集水暗渠管径 $\phi 400$
管底深度 $\text{DL}+0.1\text{m}$ ($=\text{LWL}$)

内水ポンド

尼崎冲処分場 保有水pH(集水暗渠末端)



最近の傾向

保有水(集水暗渠)11以上



内水pH(内水ポンド・処理原水)8.0~9.3

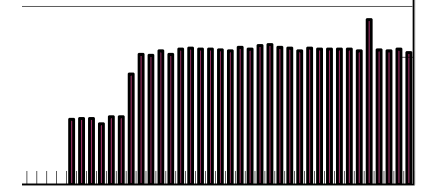


Figure 1

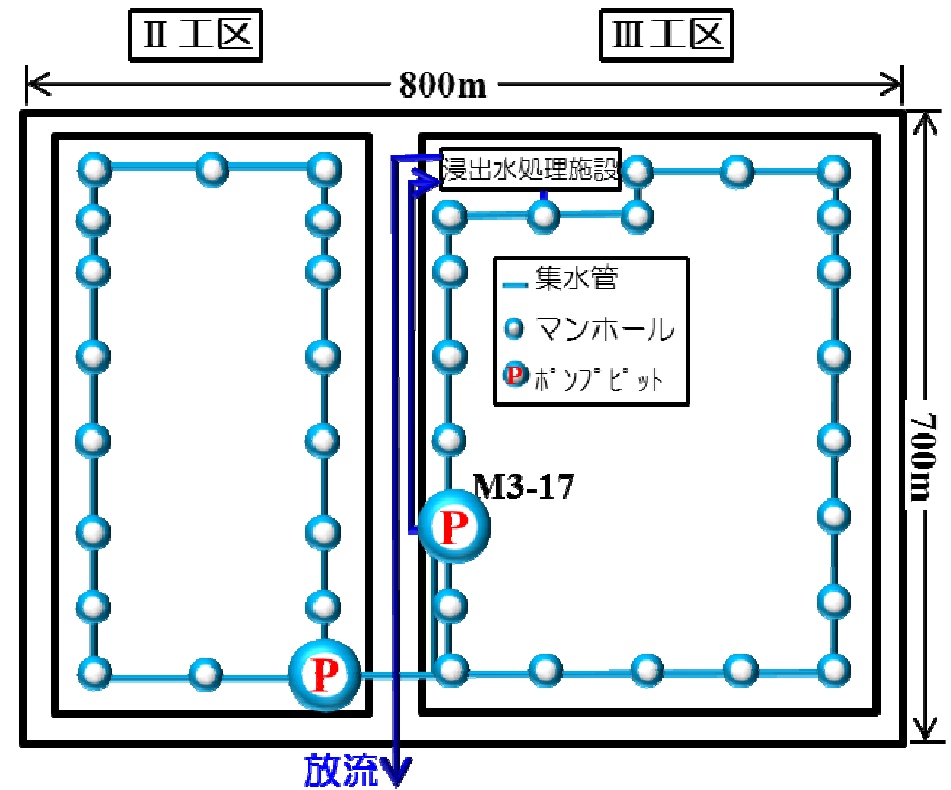
■導水量

—◆— pH

海面処分場での内水管理例 名古屋(港南5区処分場)



図・写真: 愛知臨海環境整備センター提供



陸上処分場の場合

- 集排水管閉塞等→常時内部滞水
- 集排水管の性能不良 滞水？
- 水処理施設の設計

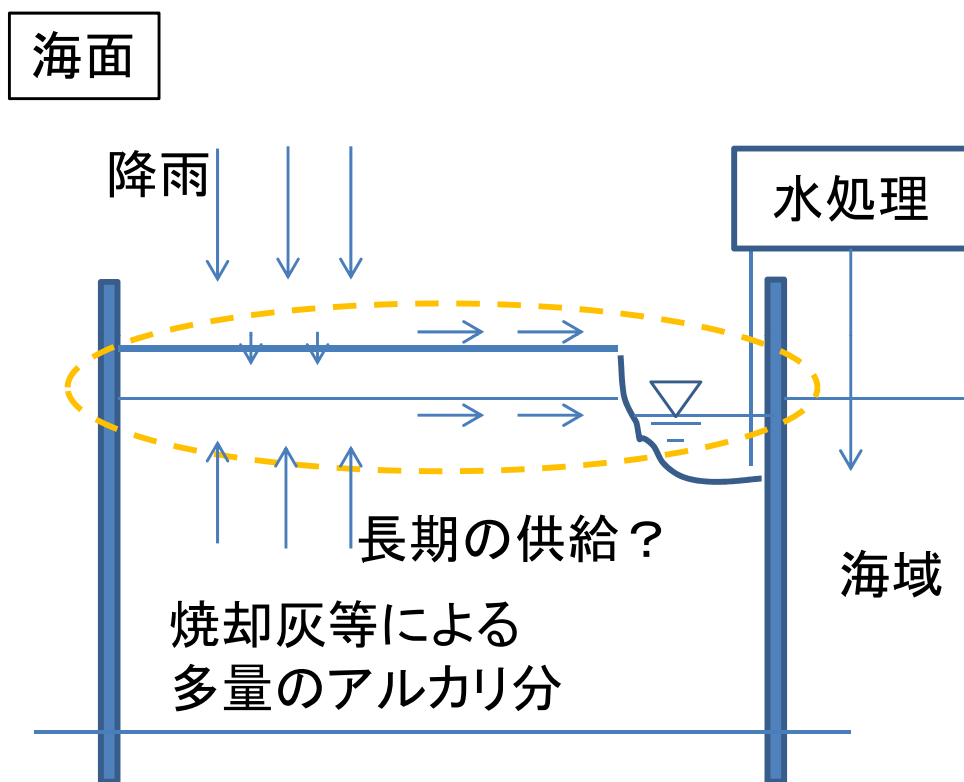


内部貯留の例(台風直後)

高pH浸出水への課題

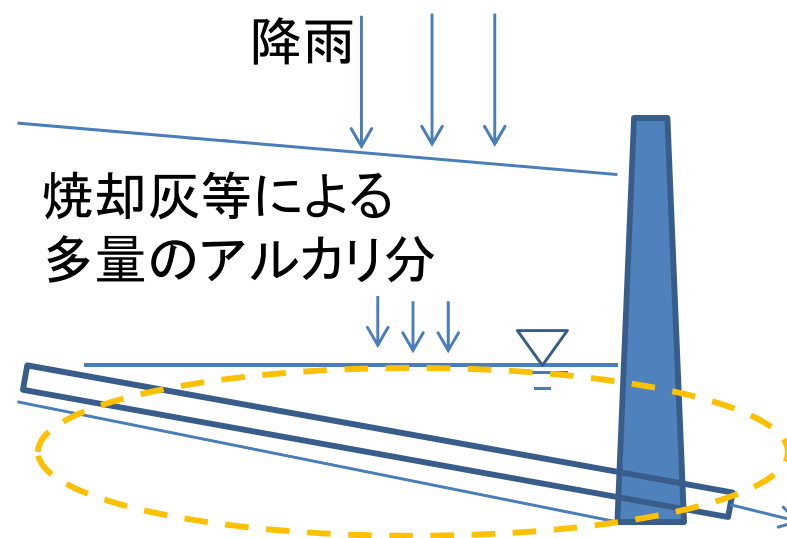
- 海面処分場保有水の表層部分での排出条件
- 陸上処分場での底部滞水問題

処分場での焼却灰層掘削事例
海面表層部分(水面上)
および山間処分場
溶出試験 pH10~11程度



排水基準: pH5.0~9.0

陸上



排水基準: pH5.6~8.6

廃止時に満たせるか？